

平成28年熊本地震にかかると防衛省・自衛隊の対応

4月26日(火) 自衛隊の給食支援と即応予備自衛官の物資輸送活動



活動場所: 熊本県益城町広安西小学校



活動場所: 熊本県熊本市アクアドームくまもと

平成28年4月27日
防 衛 省

平成28年熊本地震における部隊現況・実績(1/2)

<p>災害派遣要請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 14日(2240) 熊本県知事から災害派遣要請 ○ 16日(0236) 大分県知事から災害派遣要請 	<p>防衛省等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 省災害対策本部会議 #1(14日2245)～#18(26日1455) ○ 統合任務部隊の編成(16日0455) ○ 即応予備自の招集(17日1718) 27日1225 #19省災害対策本部会議 	<p>活動の態勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人員:約2.6万人 ○ 航空機:97機 (内、ヘリ81機) ○ 艦艇:12隻
<p>現地ニーズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、給水及び給食支援等の必要性。人命救助・行方不明者捜索については確認中 ○ インフラの遮断による給水及び給食、入浴支援等、被災者からの生活支援ニーズ(物資補給、入浴支援等) → 特に益城町、南阿蘇村、西原村、阿蘇市等 ○ 熊本県からの支援のニーズ <ul style="list-style-type: none"> － 阿蘇地区の生活道路を塞いだ倒壊家屋及び土砂等の撤去 → 民間業者による対応が可能となり、現在、自衛隊へのニーズは限定的 － 避難所における感染症対策として阿蘇医療センター(阿蘇市)の環境衛生評価支援 				
<p>運用構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 23日1700から、約2.6万人態勢を維持 ○ 23日から、民間船舶「はくおう」を被災者の休養施設として利用開始 ○ 被害が甚大な地区(南阿蘇村、益城町等)を中心に、組織的に災害派遣活動(生活支援等)を実施 ○ 避難所生活の長期化を見据え、日々変化する被災者のニーズに柔軟に対応し、各種支援を実施 ○ 避難所への支援物資の輸送推進(プッシュ型からプル型への移行) ○ 即応予備自招集命令17日発令、最大300名を逐次戦力投入(約160名が熊本市、益城町、嘉島町、美里町、御船町、甲佐町で給食、給食、入浴支援等で活動中。) ○ 降雨、余震による二次災害(土砂崩れ等)に警戒が必要(特に、南阿蘇村) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: right;"> <p>※ 修正・追加事項は赤字表記 強調事項は青字表記</p> </div>				

実績	人命救助	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人命救助・行方不明者捜索【累計:11名】 ○ 病院等の患者の輸送【累計:511名】 ○ 被災者の安全確保のための人員輸送【累計:727名】 ○ DMAT輸送【累計:94名】 	※ 修正・追加事項は赤字表記 強調事項は青字表記
	生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物資輸送(計134→227か所)【累計:毛布 37,538 枚、日用品 42,202箱、食料品 1,135,623食、飲料水 774,169本】 26日分、毛布 440枚、日用品 1,931箱、食料品 139,682食、飲料水 30,809本 (熊本市、阿蘇市、宇城市、宇土市、玉名市、八代市、益城町、菊陽町、美里町、御船町、山都町、南阿蘇村、西原村) ○ 給食支援(計49→46か所)【累計:703,512食】 26日分、45,344食(熊本市、阿蘇市、宇城市、宇土市、由布市、益城町、大津町、嘉島町、菊陽町、南阿蘇村、西原村) ○ 給水支援(計134→115か所)【累計:8,284.6t】 26日分、443.2t(熊本市、阿蘇市、宇城市、玉名市、由布市、菊池市、益城町、大津町、嘉島町、菊陽町、九重町、御船町、南阿蘇村、西原村) ○ 入浴支援(計25か所)【累計:47,337名】 26日分、8,428名(熊本市、阿蘇市、宇城市、益城町、大津町、嘉島町、菊陽町、甲佐町、御船町、山都町、南阿蘇村、西原村) ○ 天幕支援【累計:32張】:26日現在0か所 ○ 医療支援(計7か所)【累計:1,793名】:26日分、110名(熊本市、宇城市、阿蘇市、益城町、嘉島町) ※ 上記支援箇所のほか、巡回診療を実施 ○ 瓦礫除去(計17→10か所)【累計:約15.9km】:26日分、約1.8km(熊本市、阿蘇市、南小国町、南阿蘇村) 	

○ 民間船舶「はくおう」の休養施設としての利用(23~24日:八代市(174名)、25~26日:八代市(200名)、27~28日:益城町(予定)、29~30日:嘉島町(予定))

○ 26日、感染症対策チーム8名(看護師×4名、臨床検査技師×4名)が避難所(6か所)の環境衛生評価支援を実施

○ 米軍輸送機による輸送支援(18日~23日):UC-35×1機、C-130×延べ4機、MV-22オスプレイ×延べ12機により自衛隊員22名、車両8両、生活支援物資計約36tを輸送

自衛隊の活動状況(26日)



給食支援の状況(1)
(益城町立広安西小学校)



給食支援の状況(2)
(益城町立広安西小学校)



即応予備自衛官の活動(1)
(アクアドームくまもと(熊本市))

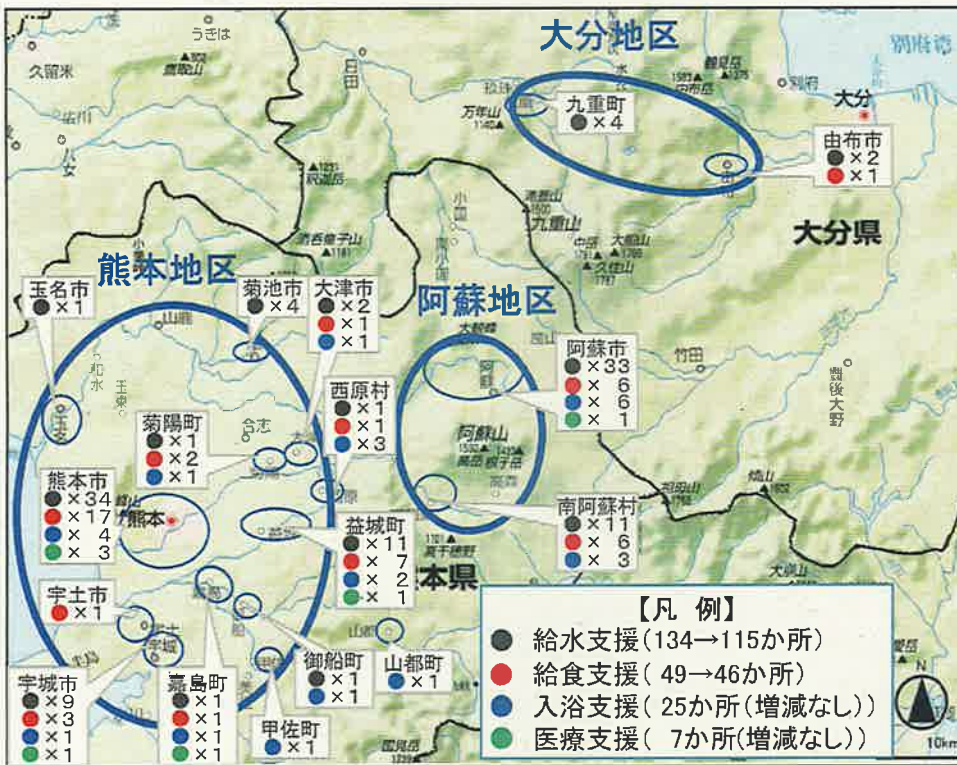


即応予備自衛官の活動(2)
(アクアドームくまもと(熊本市))

平成28年熊本地震における自衛隊の活動予定(4月27日(水))

運用構想 自衛隊は、引き続き約2.6万人態勢を維持しつつ、被災者等からのニーズに対し的確に応え得る災害派遣活動(人命救助、生活支援等)を実施する。この際、関係省庁、各自治体等との密接な連携を図る。

活動概要	人命救助	今後の行方不明者捜索の実施要領について、県に確認中
	生活支援	避難生活の長期化を見据え、日々変化する被災者のニーズに柔軟に対応し、各種支援を実施 ○ 生活支援調整チーム(JTF内)により避難所のニーズを把握し、きめ細かい生活支援を実施 ○ 民間船舶「はくおう」を、1泊2日の宿泊、食事及び入浴のサービスを提供する休養施設として利用 ○ 県の要請に基づき、避難施設におけるノロウイルス対策のため、福岡・熊本病院から 感染症対策チーム (3チーム、計8名)を阿蘇医療センター(阿蘇市)に派遣し、他の医療機関とともに各避難所における衛生評価支援を実施



地域等	部 隊
陸災部隊 阿蘇地区 (約1.6万人)	第2師団(北海道旭川市) 第4師団(福岡県福岡市) 第6師団(山形県東根市) 第7師団(北海道千歳市) 第5旅団(北海道帯広市) 第11旅団(北海道札幌市) 第12旅団(群馬県榛東村) 第13旅団(広島県海田町) 第5施設団(福岡県小郡市) 等
熊本地区 (約0.5万人)	第3師団(兵庫県伊丹市) 第8師団(熊本県熊本市) 西部方面衛生隊(熊本県熊本市) 等
大分地区 (約0.1万人)	西部方面特科隊(大分県湯布院町) 第41普通科連隊(大分県別府市) 等
海災部隊	しもきた、おおすみ、ひゅうが 等
空災部隊	西部航空警戒管制団(福岡県春日市) 等